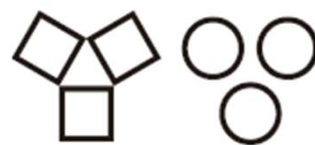


Press Release

2025年6月27日



2025年6月28日（土）開幕

横浜美術館リニューアルオープン記念展

佐藤雅彦展 新しい ×（作り方＋分かり方）

「ピタゴラスイッチ」「バザールでござーる」「だんご3兄弟」「スコーン」「モルツ」
「ポリンキー」「I. Q Intelligent Qube」「0655/2355」・・・。
これらがひとりの人によって生み出されたという驚きから、その「作り方」を知る楽しみへ――。

横浜美術館は、2025年6月28日（土）から11月3日（月・祝）まで、横浜美術館リニューアルオープン記念展として「佐藤雅彦展 新しい×（作り方＋分かり方）」（読み：さとうまさひこてん あたらしいつくりかたとあたらしいわかりかた）を開催します。

この展覧会は、佐藤の創作活動の軌跡をたどる世界初の大規模個展です。佐藤が表現者・教育者として世に送り出してきたコンテンツを一堂に紹介し、40年にわたる創作活動を概観します。

佐藤の創作の根幹には、「作り方」「分かり方」についての独自の理論やアイデアが蓄積されています。展覧会では、佐藤の多様な作品の創作プロセスを紹介し、その独創的なコミュニケーションデザインの考え方や理論を紐解いていきます。

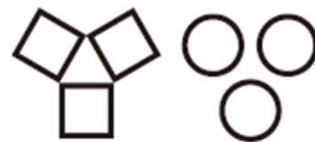
「作り方が新しければ、自ずとできたものは新しい」と語る佐藤。あらゆる物事にじっくりと対峙すること、自分なりの考え方を整理整頓すること、そこから表現を生み出すことの大切さ、面白さを、展覧会を通して広く伝えます。

3ページ目の佐藤雅彦のメッセージも合わせてご覧ください。



《計算の庭》（桐山孝司との共作）森美術館「六本木クロッシング2007」展示風景

横浜美術館



企画趣旨

「作り方を作る」という佐藤の思考を解説する

「佐藤雅彦」という名を知る人は、そう多くはないでしょう。

しかしどの世代の人でも、佐藤の手がけた作品のどれかに、なじみ深いもの、記憶に残っているものが必ずあるはずです。

時代を超えて話題作、ヒット作を送り出し続けていることもさることながら、その表現ジャンルの振幅の広さに驚かされます。よく知られた教育番組やCMはもちろん、ヴィジュアルデザインやコピーライティング、漫画、ゲーム、楽曲、映画、教科書、膨大な著書まで。この展覧会の来場者は、「これ懐かしい」からはじまり、「あ、これも知ってる」を経て、「これも同じ人が作ったものだったのか」、さらに「え、こんなものも作っているの?」と、会場で発見と驚きを繰り返すことになります。

とはいえ、佐藤作品の多様さを知ることは、あくまでこの展覧会鑑賞のファーストステップ。それらの創作物を通じて、ひとりの表現者としての際立った独自性を目の当たりにするという、次のステップが控えています。

佐藤の創作物に通底する独自性。まず、世の中のさまざまな事象（お菓子などの商品であっても、数学の問題であっても）をいかに「分かるように伝える」かを表現の目標としている点が挙げられます。そして、その伝え方のメソッド、つまり「作り方」の研究と言語化に、活動時間とコンセプトの両面で重きを置いている点でも一貫しています。

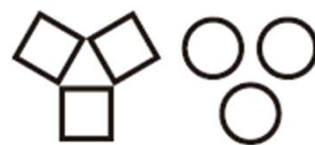
数ある「佐藤語録」の筆頭にあるのが、「私は作り方を作っているんです。作り方が新しければ、出来たものはおのずと新しいものになります」という言葉です。佐藤の創作のバックボーンには、長年かけて蓄積した「作り方」「分かり方」についての独自の理論やアイデアが横たわっています。CMの企画、教育的コンテンツの製作、書籍の執筆…発信するメディアやターゲット、そして発信すべき内容に応じて都度、それらのストックの中からいずれかを当てはめ、あるいは複数を組み合わせ、「表現」へと転化させていきます。親しみやすく特徴のある文字の書体やキャラクターに目をうばわれがちな佐藤の創作ですが、その世界観の一貫性と独創性の核は、そうした「作り方」にあるのです。

その「作り方」に焦点を当てて佐藤の創作活動を紹介するのが、この展覧会です。「作り方」とは、世界の観察の仕方、ものごとの解釈の仕方、考えの整頓の仕方など、ものを「作る」以前にある、あらゆる思考をめぐる佐藤雅彦流のメソッド、とも言えるでしょう。ものごとを自分なりに捉え、それをいかに伝えるかを考え、そして分かるように／もっと分かりたくなるように表現する——佐藤の活動は、表現者である以前に教育者である佐藤の資質と志向をよく映し出しています。

そして、表現されたものを通じて、「分かる」ととどまらず、新しい行動や思考へとうながすことも、佐藤の目指すところです。佐藤が自身の創作を「コミュニケーションデザイン」と総称するゆえにも、ここにあります。

そもそも「展覧会」という形式自体が、大がかりなメディアコミュニケーション・ツールと言えます。多様な作品とその「作り方」の実例を通して、創作の根底にある佐藤ならではの「考え方」を垣間見る——来場した方々がそのステップをクリアしたら、次はひとりひとりが、自分ならではの考え方を考える番です。

2025年5月13日 松永真太郎（横浜美術館 学芸グループ長、主席学芸員／佐藤雅彦展企画）



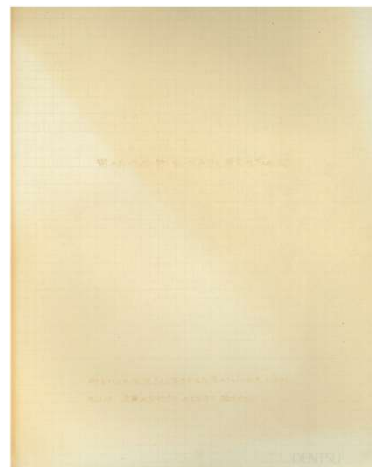
作り方を作る

私の自宅の机の前には、29歳のときに貼ったメモが40年以上たった今でも残っています。

もうすっかり日焼けしたその紙片には、やはりすっかり退色してしまっているインクで、こう書かれています。

別のルールで物を作ろうと考えている。

これが、表現力をまったく持ちあわせていなかった当時の自分が考え出した方法論の始まりでした。表現系の教育も受けてはおらず、キャリアも技術もまったくなかった会社員の自分が、成り行きで、としかいいようのない状況でグラフィックデザインをしなくてはならなくなり、真っ白なレイアウト用紙を目の前にして、大きな不安の中、この小さな決意が生まれたのです。



29歳のときのメモ

この「別のルール」とは、従来にない「新しい作り方」に他なりません。

それ以来、私は、何かを作り出す時には、いきなり「作り出す」のではなく、

「作り方から作る」ということを心がけてきました。それは、40年以上経った今も変わることはありません。

では、何かを作り出す時の「何か」って、私にとって、どういうものでしょうか。

正直言うと、20代の頃はまったく分かりませんでした。自分は、この世に生を受けて、何をする人間なのか、考えれば考えるほど掴めない、得体の知れない問いでした。

とりあえず、答えを出せそうにもないこの問いのことは脇に置いておいて、与えられた仕事や、CM、畑違いのゲームなどを夢中で作っていると、なんと今度は自分のやりたいことが分かるようになってきたのです。40歳になっていました。私は、CMを作りたいわけではありませんでした、キャラクターを作りたいわけではありませんでした。その奥にある「ある事」に強く惹かれていたのです。

ちょうどその頃、慶應義塾大学に教授として招聘され、講義や研究室で、自分のやってきた背景を言語化する必要が生まれた時、次のような言葉が自然と出てきました。

どうしたら あることを 伝えることができるか

どうしたら あることを 分かってもらえるか

これが、私のやりたいことの本性でした。それを現実に達成するための方法が「作り方を作る」だったのです。

そういうわけで、今回の展覧会のサブテーマを

新しい×（作り方＋分かり方）

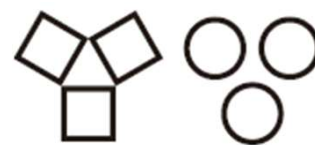
としたのです。

この会場には、私が作ってきた、主だったものを展示してあります。一見、楽しいもの、かわいいもの、面白いものを皆さんは見つけることができるかもしれません。

それらを楽しんでいただけたら、それだけで幸いなのですが、それらの後ろに存在している「作り方を作る」そして、「どうしたら分かてもらえるか」という、私の目指したことを理解していただけたら、さらに嬉しく思います。

2025年 6 月 佐藤雅彦

Press Release



佐藤雅彦 略歴



撮影：STUDIO DUNK

- 1954 静岡県田方郡戸田町（現・沼津市）に生まれる
- 1977 東京大学教育学部を卒業、電通に入社
- 1987 電通クリエイティブ局に移籍、CMプランナーとして湖池屋「スコーン」（1988）「ポリンキー」（1990）、NEC「バザールでござーる」（1991）、サントリー「モルツ」（1992）などを手がける
- 1994 電通を退社、企画事務所「TOPICS」設立
プレイステーションソフト「I.Q.」（1997／売上本数総計101万本）や「だんご3兄弟」（1999／CD売上枚数380万枚）、などジャンルを横断したコンテンツを次々とヒットさせる
- 1999 慶應義塾大学環境情報学部教授
- 2002 慶應義塾大学佐藤雅彦研究室で「ピタゴラスイッチ」（NHK教育）を立ち上げる。以降、国民的幼児教育番組に
- 2005 佐藤研究室OBによるクリエイティヴグループ「ユーフラテス」設立
- 2006 東京藝術大学大学院映像研究科教授（2021年より名誉教授）
- 2011 芸術選奨文部科学大臣賞受賞
- 2013 紫綬褒章受章
- 2014 カンヌ国際映画祭短編部門に正式招待（2018年も）

特徴

佐藤雅彦のキャリアをたどる、初めての個展

この展覧会は、佐藤雅彦の創作活動を概観する、初めての大規模個展です。記憶に残るテレビ番組やCM、キャラクターから、物理学や認知科学の研究から生まれた知的好奇心を刺激する映像作品やメディアアートまで。佐藤がこれまで世に送り出してきたさまざまなコンテンツを紹介し、40年に渡る創作活動の全貌を明らかにします。

独自の的方法論＝「作り方」に焦点をあてる

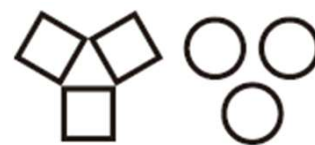
佐藤の創作には、「作り方」「分かり方」に対する独自のアイデアと方法論が息づいています。ひとつひとつの作品が受け手の心に強く訴えかけてくるのは、そこに確固たる「作り方」があるからです。この展覧会では、佐藤の創作プロセスを紹介しながら、その独創的な「作り方」を紐解いていきます。

横浜美術館の新機軸として

「おかえり、ヨコハマ」展に続くこのリニューアルオープン記念展は、リニューアル後の当館が標榜する「テーマとジャンルの多様性」を象徴する展覧会として企画されました。多様なジャンルの創作物が展示室に並びますが、そこには佐藤雅彦という作り手の思想と感性が貫かれています。「アート」という言葉で括りがたい作品群から、ひとりの表現者の「作家性」を浮き彫りにする。それが本展のテーマです。

横浜美術館

Press Release



公式図録

『作り方を作る』

40年にわたる創作活動について、佐藤雅彦自身が書き下ろし、幅広い活動の全容をつたえる初めての一冊。別名「物語の形をした図録」。

定価2,970 円（税込）

発行 左右社

B5判変形／並製／288ページ

ISBN978-4-86528-475-1

2025年6月28日よりミュージアムショップ「MYNATE」にて販売予定。
MYNATE限定特典ステッカー付き。（オンラインショップでも販売）

<https://mynate.base.shop/>



オリジナルグッズ

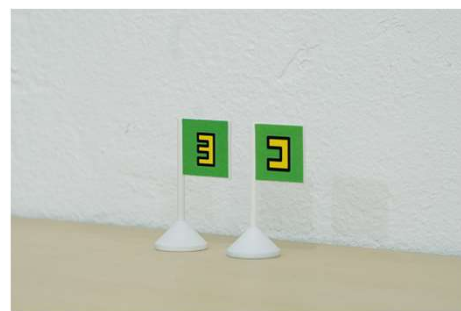
ピタゴラもじもじFlagとシール

ミュージアムショップ「MYNATE」では、佐藤雅彦の企画により、代表作の一つであるピタゴラススイッチのオリジナルグッズを開発し、販売します。

また、これまでに出版された佐藤雅彦の書籍はもちろん、ピタゴラススイッチのDVDや関連グッズなども幅広く展開し、大人も子どもも年齢に関係なく、みなさまにお楽しみいただけます。ぜひご期待ください！

「ピタゴラもじもじ Flag」1個 250円（税込）

「ピタゴラもじもじ Flagシール」1セット 880円（税込）



「ピタゴラもじもじ Flag」

2025年6月28日よりミュージアムショップ「MYNATE」にて販売予定。

オリジナルメニュー

「ピタゴラスの定理による馬車道十番館プディング3兄弟」と「アップル $\pi/6$ 」「アップル $\pi/4$ 」

「馬車道十番館 横浜美術館 喫茶室」では、馬車道本館喫茶室の代表的なデザートとして佐藤雅彦がアレンジしたコラボメニューを用意します。

「ピタゴラスの定理による馬車道十番館プディング3兄弟」は、3つのプリンをまさにピタゴラスの定理に基づいた大きさで配置し、3兄弟の個性をトッピングのフルーツで演出しました。

「アップル $\pi/6$ 」「アップル $\pi/4$ 」は、円形のアップルパイを、角度を表す「弧度法」を用いてそれぞれの角度にカットし、フルーツとソフトクリームを添えたデザートです。（ $\pi/6 = 30^\circ$ 、 $\pi/4 = 45^\circ$ ）

「ピタゴラスの定理による馬車道十番館プディング3兄弟

（略してプディング3兄弟）」1,155円（税込）

アップルパイならぬ「アップル $\pi/6$ （ろくぶんのぱい）」990円（税込）

「アップル $\pi/4$ （よんぶんのぱい）」1,265円（税込）

2025年6月27日より「馬車道十番館 横浜美術館 喫茶室」にて販売予定。

いずれも各日数量限定。



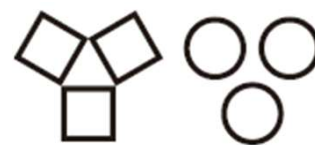
「ピタゴラスの定理による
馬車道十番館プディング3兄弟」



「アップル $\pi/6$ 」「アップル $\pi/4$ 」
（ 30° の中心角）（ 45° の中心角）

横浜美術館

Press Release



開催情報

会 期：2025年6月28日（土）～11月3日（月・祝）（開館日数：111日）
開館時間：10：00～18：00（入館は閉館の30分前まで）
休 館 日：木曜日

主 催：横浜美術館、TOPICS
特別協賛：株式会社電通、株式会社サイバーエージェント、DNP大日本印刷
協 賛：株式会社湖池屋、株式会社ビームス
協 力：NHKエデュケーショナル、アドミュージアム東京、NEC、
東京藝術大学大学院映像研究科、佐藤雅彦教育文化財団、みなとみらい線

観 覧 料：一般2,000（1,900）円／大学生1,600（1,500）円／中学・高校生1,000（900）円／小学生以下無料
※チケットはオンラインにて発売中です。券売所は混雑が予想されるため、オンラインチケットの
事前購入をおすすめします。
※（ ）内は有料20名以上の団体料金〔要事前予約（TEL：045-221-0300）、美術館券売所でのみ販売〕
※障がい者手帳をお持ちの方と介護の方（1名）は無料（ミライロID可）
※同時開催のコレクション展も、「佐藤雅彦展」チケットで観覧当日に限りご入場いただけます。

ウェブサイトやチラシも合わせてご覧ください。

URL：https://yokohama.art.museum/exhibition/202506_satomasahiko/

チラシ：https://yokohama.art.museum/wp-content/uploads/2025/05/202506_satomasahiko_flyer.pdf

次回展覧会

横浜美術館リニューアルオープン記念展
「日韓現代美術展」（仮称）

会期：2025年12月6日（土）－ 2026年3月22日（日）

プレス画像申込・お問合せ

プレス画像申込 <https://yokohama.art.museum/pressroom/form/>

プレスリリースお問合せ先

横浜美術館 広報担当（高野、高橋、岩見屋）

TEL 045-221-0319 | FAX 045-221-0317

e-mail：pr-yma@yaf.or.jp

横浜美術館（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）

横浜市西区みなとみらい3-4-1 TEL 045-221-0300(代表)

<https://yokohama.art.museum/>

横浜美術館